

広島大学学術情報リポジトリ
Hiroshima University Institutional Repository

| | |
|------------|---|
| Title | 日本の精神 |
| Author(s) | セティヤワン, |
| Citation | 日本語・日本文化研修プログラム研修レポート集 , 1991 : 45 - 48 |
| Issue Date | 1992-03-01 |
| DOI | |
| Self DOI | |
| URL | https://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/00039301 |
| Right | |
| Relation | |



日本の精神

セティヤワン

-なぜ日本

なぜ私は日本のことに興味があるかという答えはたくさんありますがそのなかにもっとも大きな理由としては日本の経済だと思います。日本は一つのアジアの国ですけど世界のスーパーパワーの一つに数えられるにいます。もちろん中国もスーパーパワー国といってもよいんですが日本の場合はちょっとちがうと思います。なぜかという日本のパワーはお金パワーであります。つまり今の世界の一番力強くのはお金だから、お金があればパワーは得られるはずで。

という事実を考えてみると、わるいことではないと私は思います。そのわけで私はどうやら私の国は日本と同じみにお金をもうけることができるかと一生懸命に勉強しています。

お金をもうけるためにももちろん私たちは働かなければなりません。私たち（インドネシアの人々）も日本人と同じ毎日働いているけどどうしても結果はちがいます。なぜかという、多分私たちの仕事のやりかたがよくないんだと思います。よくないというのはどうしななければならないのをわからないわけではありません。ただ仕事をする意識がたりないと思います。どうやらこの意識を高めることができるか、いつも私の頭に浮かんでいます。そのほかに多分物の考え方や見方が不適切なのではないかと思います。だから”働くことが大好き日本”の研究をしています。研究していることはなぜ日本が今の状態になれたかということです。もちろん色々な理由我あります。外の理由いわば物理的な理由と中の理由いわば精神的な理由があります。私の研究の目的はインドネシアの人々に適用できる発達のために必要な条件をみつけることですから中の理由を中心に研究をしています。その結果としてまず私によってなぜ日本はこんな状態になったのかを述べたいと思います。でもここ結果はまだまだ浅いと思って、たくさんのまちがいがあはずです。不適切があれば、もうしわけございません。

日本人の発達には私によれば多分つぎの理由で生じました。まず外側の理由は：

1. 鎖国

17世紀に日本は一部をのぞいてすべての外国と交流を止めはじめました。およそ250年あまりに日本は自分の要るものごとを自分でできるだけ（しかたがない）満たしました。この鎖国を経験したことがあるからこそ日本はたとえ外の国々がなくても生存できると思います。万一ひどい不景気が起こったら場合のために日本はこの経験（鎖国）があるわけで今後一生懸命に働いています。つまり最もつらい期間を味わったことがあるからその以上、もっとつらい時代を起こらないようにために一生懸命に働かなければなりません。

2. 同類性

留学生に”日本であちこちに行ったことがありますよね、あなたにとってどんなところが一番おもしろいですか” 聞きましたら答えはほとんど同じです。”どこでも同じだからもっともおもしろいところはありますがちょっとだけちがうところがあります”

私もそういう気がします。どこへ行っても同じスーツのビジネスマン、同じの建物、同じの日本人です。なぜ同じような日本人ということが一つの日本の発達理由としてかぞえられるか、という私の国の問題の一つをあげてみるとよいと思います。インドネシアという国は多くの民族でできています。中国系とかアラビア系とか限り無くたくさんの民族がインドネシアにはいます。そのなかにユニークな民族がいます。なぜ私はその民族のことをユニークと言うのは彼らは中国人かアメリカ人かのように見ればすぐ区別できるわけじゃないからです。その民族は自所自慢しすぎるか貴族のことを自慢しすぎる民族であります。たとえばジャワ民族はジャワ島にすんでいるから、イリアン民族はイリアンという場所にすんでいるからなどなど。お互いに自分のことを自慢しすぎるから一緒に仕事をすればうまくいかないことがよくあります。たとえば一つの仕事はうまくいかない場合では皆責任だと思わせありません。外の”民族”が悪い！ 俺の”民族”の悪いじゃない！ いつもこんないけないことをくりかえします。だから日本の場合はこんなことがないから仕事もだいたいうまくいけるのだと思います。

3. 気候風土

日本にきてからまだ中ヶ月ばかりですが私自身も色々な経験を味わいました。特に日本の気候と風土です。年中無休の暑い日の国からきた私にとって日本の気候は日本人の生活パターンに非常に大きな影響をあたえられるはずだと思います。寒い時期になにをすれば日々をらくに過ごせるか、また暑い夏もほかの工夫を考えなければなりません。こんな”訓練”をしなければならぬ結果としては創造性力が生み出されたのだと思います。この創造性をただしく使うから発達もするはずで。気候のほかには風土も理由として考えてみると本当に重要だと思います。日本には山々がたくさんですけど天然資源はあまりないからほかのものからお金をもうけるしかたがありません。それは外国から収入された原料を使ってもっと価値があるものを作ります。

以上です。そして中側の理由つまり精神的な理由としては：

1. 天の物

神話によると神様は日本の天皇の先祖だそうです。もちろん神話はいつまでも神話、学問的に受け入れられないことです。でもどうしてもこの神話は精神的にかなりの影響があるはずだと思います。なぜならアジアの国々では精神文化は欧米にくらべれば非常に発達しました。日本も一つのアジアの国だからそういうこともあるはずで。ですから日本人は神様のような力をもっている人生に指揮されるからすべてのやることをその偉大さを映らなければなりません。神様のような一番にならなければなりません。一番になるために一生懸命に働かなければなりません。しかもひどいことが起こっても立派なリーダーがいるから心配ありません。

2. 羨望

羨ましいことはよくないこと。これはだれでも知っていますけど本当ですか。私にとって場合によってです。ある時よくないですがある時いいです。どんな時がよくないというとそれは羨ましいことばかりがある時です。つまり羨望を感じてこの羨望の感じを消すために何もしないままの時です。たとえばほかの人の財産を羨ましいそしてその羨ましさを消すために自分も一生懸命に働くということは本当にいいことだと思います。日本の場合も同じだと思います。欧米の発達に羨望をします。同じことを感じられるため

に追いつけ追い越せ。でも時々羨望を大きく感じすぎてどんな仕方もゆるせるってことはいけないと思います。外の人の損得も考えなければなりません。

－なぜ松下幸之助

前に述べましたように私は日本の精神を中心に研究をしています。なぜかというと気候か風土とちがって精神は適用できるからです。しかも作られることです。でも日本の精神というのはあまりにもたくさんありすぎるんじゃないかと思います。そこで一つか一人かの精神を決めて習わなければなりません。インドネシアの人々の仕事をやる意識を目的として松下幸之助によって日本の精神を勉強しています。松下幸之助（1894－1989）は松下電気の設立者でした。日本人は彼を経営の神様とよんでいます。彼の成功に感動されてしかも自分の成功の秘密、考え方、見方を立派に述べられるから彼の考え方を研究することを決めました。松下幸之助によりますと日本の精神はなにかを以下のように述べています。

－日本の精神は天皇家の精神

前に述べたように（天の物）とちがい、天皇家の精神というのは日本の天皇が二千年にわたって実行してこられた姿または実態です。もちろん天皇家といっても個々の天皇については色々な方がいたのですが二千年いっかんして日本の天皇家はどういう精神または態度をもって終始していたかということです。この天皇家の精神は三つにわかれています。

1. 主座を保つこと

日本の天皇家は二千年にわたって主座というものをはっきりと保っていたんだそうです。主座を保つというものは主人としての座を保っていわゆる自主性、自体性をもって自分というものをしっかり堅持するということです。私によってこの主座を保つことはすごく広い意味をもっていると思います。たとえば学生として勉強はもちろんのことはだれでも知っていますが毎日勉強ばかりと学生としての義務はまだ足りないと思います。自分の義務はなにかと言う疑問は答えられないかもしれません。たとえ教授者の義務はなにかを教えるばかりわけではないと思います。研究が社会的な活動も教授の義務だと思えます。こういう疑問は多少あります。わかりにくいかもしれませんが主座を保つために一般的なアイデアはまずわからなくてははいけません。学生はまず勉強、教授者はまず教えることなどなど。わすれてはいけないのはそのほかの義務、つまり社会のものとしての義務です。

2. 衆知を集めること

古事記にあるはなしなのですが古来日本には八百万の神がいたと書かれています。その神々が何かことがあると集まって相談して決めます。八百万の意味は無数です。その神々は人間のたとえは考えられるそうです。つまり日本人の先祖はつねに衆知を集めて物事を行ってきたを示すものだそうです。この精神は本当に大切だと思います。とくに耳を傾けにくい最近の人々にとって。でも、ちょっとちがうはなしなんです。東の方の人々は西の人々にくらべれば衆知を集めすぎて一方西の人々はそれが足りないと思いません。授業中の留学生たちを見ればわかると思います。欧米の学生たちはいつも自分の意見か見解ををよくいって、一方アジアの学生たちは教授から意見を求められるまで”一生懸命に衆知を集めます”。どろかが最適かということそれは社会によってちがいます。アジアでは学生たちはもっと欧米の学生らしい意見のあげかたを自分にかけてのむ教授

がたくさんいるんです。でも学生たちが欧米学生たちの意見のあげかたをもっていればアジアの教授としてうれしいはずわけではないと思います。もっともいい方法は教授の主演にあると思います。つまり意見が必要時にみとめることです。

3. 和を尊ぶ

和を尊ぶということは和の心を大事にすること、つまり平和を愛校し、調和を大切にすることです。この精神についてはちょっと変な感じをしました。なぜかというともし日本の天皇家は平和ということを大切にしたらなぜ昔から日本が外の国と戦争をよくしたのか。松下幸之助はこういう説明をしてくださいました。最初にこの地球の上に無数の小集落がありました。そこでいる集長は自分の権力欲を中心に力でほかの集落を征服しました。反対にみんなの幸せのためにということを考えて集長もいました。その集長と賛成する集落もあって、反対するのもありました。中には武力に訴えて戦いをいどんでくるところもありその場合やむなく戦います。日本の場合はどちらかというとな松下幸之助によりますと後者だそうでした。この意見は大洋戦争にあたるのかもしれませんが東南アジアからみるとはずれていると思います。もしその戦争が平和のためならなぜ東南アジアの人々にひどい待遇をしましたか。戦争は戦争と考える人もあるかもしれませんが”平和のため”は理由としては受けられません。

—どう適用させるか

もちろんその松下幸之助の考え方はそのまま適用させることはできません。なぜならもし日本に支配された経験があるインドネシアの人々がその精神は日本の天皇家の精神だと言われればもう受け入れられないはずということはもちろんのことです。そこで受け入れられるためにほかの松下幸之助の考え方をまじえて提案します。その考え方は素直な心についてであります。まずその松下幸之助によって素直な心を持つてば次のことはうまくいけると思います。松下幸之助によりますと素直な心は単に人に逆らわず、従順であるというようなことではありません。むしろ本当の意味の素直さというものは、力強く、積極的な内容を持つものです。つまり素直な心とは、私心なくくもりのない心と言うか、一つのことにとらわれずに、物事があるがままに見ようとする心だと言えます。この素直な心になるために本当にしにくいことです。でも将来のためにどんなにしにくくてもしてみます。